

1. むらづくりの主体

- (1) 名 称 ふりがな 高宮営農組合 たかみやえいのうくみあい
- (2) 所 在 地 ふりがな 富山県南砺市高宮 とやまけんなんとしたかみや
- (3) 地区の規模 集落
- (4) 組織の性格 地縁的な集団
- (5) 代表者の氏名(敬称略)、役職 ふりがな
- 氏 名 : 當田 衛 とうだ まもる
- 役 職 : 組合長

2. 地区の概要

総人口	農(林、漁)業 就業人口	総世帯数	総土地面積	耕地	採草放牧地	山林	
539 人	208 人	148 戸	— ha	73 ha	— ha	— ha	
農家戸数	販売農家数	専業農家	第Ⅰ種兼業農家	第Ⅱ種兼業農家	主業農家	準主業農家	副業的農家
60 戸	60 戸	— 戸 (—%)	— 戸 (—%)	60 戸 (100.0%)	— 戸 (—%)	60 戸 (100%)	— 戸 (—%)
地域指定状況			農業地域類型区分				
農振：平成17年度 森林：平成23年度 都市計画：有 その他：振興山村、過疎、特定農山村			市 町 村		当 該 地 区		
			中間農業地域		中間農業地域		

3. むらづくりの内容及び成果

(1) 地域の沿革と概要

南砺市は、富山県の西南端に位置し、北部は砺波市と小矢部市、東部は富山市、西部は石川県、南部は1,000mから1,800m級の山岳を経て岐阜県と隣接している。

約8割が白山国立公園等を含む森林であるほか、岐阜県境に連なる山々に源を発して庄川や小矢部川の急流河川が北流し、市北部の平野部では、水田地帯の中に美しい「散居村」の風景が広がるなど、独特の集落景観を形成している。歴史的には加賀藩政下で平野部は新田開発が進められ、また、五箇山地方では、日本の他の地域には見られない「合掌造り家屋」の集落が保存・伝承されているなど、独自の風土に根ざした固有の文化を育んできた。

高宮集落のある福光地区では、集落営農組織が多く、水稻、大豆および大麦が主要作物であるが、江戸時代から続く、富山干柿の生産地でもある。高宮集落は福光地区の中心部の南、JR城端線福光駅から南へ約1kmに位置し、農振地域と用途地域にまたがっている。

国土地理院承認 平14総説 第149号

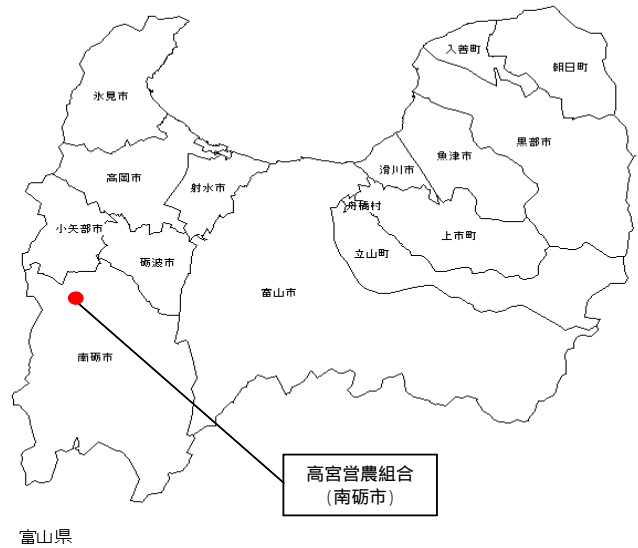


図1 位置図

(2) むらづくりの動機、背景

ア むらづくりを推進するに至った動機・背景

農家・非農家が混在する市街地隣接の集落であったが、平成5年頃から後継者不足等の理由で農作業を他集落の担い手等へ委託する農家が発生し始めた。また、国道304号線のバイパス工事計画により、集落が国道により二分され、むら機能が崩れる兆しが見られた。

また、集落内の農家で構成する生産組合が、集落内に点在する干柿の防除を共同で行うなど、むらの共同活動として各種農作業に取り組んできたが、将来の後継者不足が懸念されるようになった。さらに、ほ場の区画が10aと小さいなど、非効率的な生産条件から将来の営農に不安があった。

イ むらづくりについての合意形成の過程とその内容

このため、まずは、営農の維持・発展に向けて、集落の90%以上の農家が参画する「高宮営農組合」を平成11年に設立した。(構成農家55戸)

併せて、営農基盤の整備として「担い手育成型基盤整備事業」を活用してほ場の大型化と農道・用排水整備工事に取り組んだ。ほ場整備の進捗に併せて、環境保全活動として「高宮営農組合」が主体となり、芝等の張り付けといった景観管理をすすめた。また、後継者育成として、「高宮営農組合」が組合内の親子を対象に、田植や稲刈を行う親子農業体験教室「どろんこキッズ」を平成17年から始めた。このような経験から、平成20年の「農地・水・環境保全向上対策事業」開始時には、集落の総意として自然と「高宮」集落全体で同事業に取り組むこととなった。

平成20年4月に高宮自治会に「高宮営農組合」が核となって、集落内の各種団体の参加

による「高宮環境保全会」を立ち上げた。同会は、これまで、「高宮営農組合」が取り組んできた江ざらい（排水路の土上げ）や堤防草刈、用排水等の保全点検や畦畔植栽、親子農業体験教室を活動に加え、さらにゴミ拾い等の活動も新たに加えて行っている。

(3) むらづくりの推進体制

ア 当該集団等の組織体制、構成員の状況

1) 「高宮営農組合」の設立経過

「高宮営農組合」は、これからのむら機能の維持や今後の営農方向について、世代ごとに議論を重ね、担い手育成型基盤整備事業の認可を契機に「一集落一農場」方式を目指し、平成11年に集落内農家の9割以上が参画した水稻の共同作業組織として設立された。基盤整備の進捗に応じて、平成12年に大麦および大豆部門が、平成13年には水稻部門が協業化（経営の一元化）された。

また、設立当初から高齢者や女性の労力の活用と地域の活性化に向け、野菜や花きの園芸作物を積極的に導入し、経営の複合化にも取り組んでいる。

2) 「高宮営農組合」の組織体制

「高宮営農組合」では組合長を中心に総務部、水稻部、機械部および園芸部の4部で構成され、自治会と相互協力して、むらづくりを推進している。

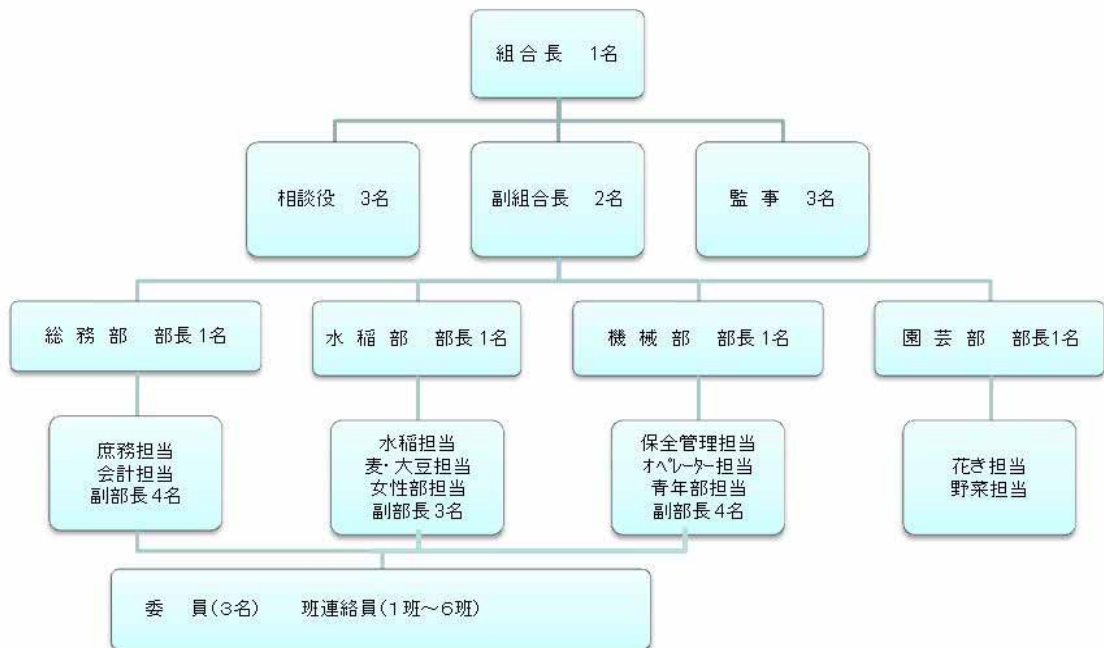


図2 高宮営農組合の組織図

(4) むらづくりの農業生産面への寄与状況

ア 当該集団の農業生産、流通面の取組み状況

1) 「高宮営農組合」の設立による農業生産体制の確立

担い手不足が懸念された高宮集落において、協業型の集落営農組織が設立されたことから、今後の営農の維持と発展につながっている。

【H23年度「高宮営農組合」の経営面積】

水稲 (42.1ha)、大麦 (7.3ha)、大豆 (3.2ha)

園芸作物 キク (ハウス1棟、露地20a)、ヒマワリ (露地5a)、オクラ (ハウス6棟)
キュウリ (ハウス4棟)、スイカ (ハウス4棟)

2) 環境に配慮した農業生産

基盤整備実施後、ほ場内およびほ場間における地力差が見られたことから、積極的に牛ふん堆肥および鶏ふんによる土づくりを継続的に行っている。併せて、大麦跡にはクロタラリア、大豆前にはヘアリーベッチなど緑肥作物栽培を行い、化学肥料と農薬の低減に積極的に取り組んでおり、エコファーマーの認定を受けたところである。

イ 当該集団等による生産力の向上、生産の組織化、生産流通基盤の整備等への寄与状況

1) 作物栽培の効率化

機械の共同利用や経理の一元化に加え、「担い手育成型基盤整備事業」により、農地の約90%が1ha以上の大区画ほ場となり、大型機械の導入や作物・品種別の団地化により効率的な農作業と生産コストの低減を図っている。また、品種構成も早生：中生：晩生＝29%：49%：22%とバランス良く、機械・施設および労力の合理化・効率化が実現している。また、近年は直播栽培も導入し、さらなる省力化および低コスト化を図っている。



写真 1 大区画圃場での機械作業

【経営状況】

水稲 (H22) 労働時間 19.7hr/10a (県平均比 60%)

生産費 114,609円/10a (県平均比 69%)

品種構成 (H23) 早生：とみちから 2.4ha、五百万石 10.0ha

中生：夢ごこち 7.4ha、コシヒカリ 13.0ha (うち直播 4.1ha)

春陽 0.4ha

晩生：てんこもり 9.1ha 新大正もち 0.1ha

2) 生産技術の高位平準化

水稲においては栽培技術の向上のため、副組合長が中心となり、品種ごとに草丈・茎数・葉色・葉令・葉色 (SPAD) 等の生育調査を行っている。またその結果を基に、年間を通して、組合独自の「栽培管理情報」を発行するとともに、組合内を6つの班に編成し、班長がリーダーとなり、組合員全員が適正な管理を行える体制を整備している。さらに、生育調査結果を次年度の栽培方法の改善に活用し、収量・品質の安定化につなげている。なお、設立以来発行している「栽培管理情報」はこれまでに130号を超えている。

ウ 当該集団等の活動による構成員等の経営の改善、後継者の育成・確保、女性の経営参画の促進状況

1) 経営改善への各種取り組み

下記の「5S運動」を組合のスローガンに掲げ、事務所内に掲示するとともに、通常総会等で出席者が読み上げ、組合員の営農活動に対する意識の維持・向上に努めている。

高宮営農組合 5S運動

Speciality スペシャルティ 専門

私たちは、最先端の農業を目指し、常に専門知識、技術を習得するために学び続けます。

Safety セフティ 安全

私たちは、国民の皆様常に安全な農産物を供与します。また、農作業は安全第一に行います。

Speed スピード 迅速

私たちは、消費者の声と正しい情報を的確にキャッチし、迅速に行動を興し最善の農産物を作ります。

Spirit スピリット 元気（情熱）

私たちは、元気をモットーに自分の仕事に誇りもち、情熱を傾けて温かい心で農産物づくりに励みます。

Smile スマイル 笑顔

私たちは、地域の皆さんと温かい笑顔で挨拶を交わし、自然の恵みによる農産物作りに努めます。

経営管理については、財産状況の明確化のため、設立当初から複式簿記を導入している。また、総会時には、設立以来13年間、水稻の単収の推移などの生産性の解析に加え、水稻・大豆といった作物別に収支報告を行っている。また、中小企業診断士からアドバイスをもらう機会を積極的に設けるなど、常に経営改善に努めており、平成21年度には『農業簿記利用優良経営表彰（組織の部）』を受賞している。

また、園芸部門では毎年、作物別の出荷検討会等を開催し、栽培面やコスト面などについて次年度に向けた対応策を市場や関係機関を交えて協議し改善に努めている。



写真2 中小企業診断士との経営検討会

2) 後継者育成

「高宮どろんこキッズ」や「親子でつくる野菜畑」といった将来の担い手となる小学生に対する農業への理解を深める活動を継続的に実施している。

3) 女性および高齢者労力を活用した園芸部門導入による複合化

女性や高齢者の農業への意識低下を防ぐとともに、更なる経営発展にむけ、福光地区ではいち早く、設立と同時に女性および高齢者の労力を活用した園芸部門導入による複合化に取り組んでいる。

キクやヒマワリといった花き部門は女性が、野菜部門は高齢者が中心となり取り組んでいる。今日では、10年以上の取組み実績もあり、花き部門では栽培・出荷調整技術が高く、市場からの評価が高い。また、野菜については事前の契約に基づく生産・出荷に取り組むなど、園芸部門が「高宮営農組合」の経営の1部門として位置付けられている。



写真3 小キクの出荷調整作業

(5) むらづくりの生活・環境整備面への寄与状況

ア 当該集団等の生活・環境整備面の取り組み状況

1) 法面および農道の植栽およびゴミ拾い等による景観保全活動

基盤整備事業の工事状況と並行して「高宮営農組合」が行ってきた畦畔への植栽活動が発展し、平成20年度より非農家も一緒に「ヒメイワダレソウ」や「シバザクラ」を植栽している。さらに、小矢部川沿いの農道には桜を植栽し、草刈などの管理を行っている。

さらに、たかみやクリーン作戦「ゴミ拾い」を年2回実施し、農道などの景観保全活動をむら一丸となって取り組むなど、農家と非農家を含めた地域住民全体が心とむような環境づくりを進めている。



写真4 ヒメイワダレソウ植栽、畦の草取り

2) 畦畔・農道の草刈、地区江ざらい（用排水の泥上げ）農道の改善修繕および用排水管理等の農業環境整備活動

毎年春に非農家の住民も参加して、江ざらいを実施している。また、用排水路の簡易な改修、修繕および保守点検は「高宮営農組合」が実施している。

3) 機関誌の発行による非農家も対象にした啓発活動

環境保全活動の様子に加え、その後の状況や農用地の管理方法について、随時、「保全会だより：たかみや環境保全」全戸配布の広報誌に記載している。

植栽した桜の生育状況など、活動後のムラの様子を掲載するなど、年間を通じて、地域環境と農業環境への理解促進を図るなど、啓発活動に努めている。また、その活動内容も「保全だより」を集落全戸配布することにより、環境に関する意識の向上とむら全体の「まとまり感」を醸成している。

イ 当該集団等による生活条件の改善・整備、コミュニティ活動の強化、都市住民との交流等への寄与状況

1) 「高宮どろんこキッズ」およびJA福光キッズクラブにおける稲作体験活動

平成17年より、「高宮営農組合」では「どろんこキッズ」を将来の担い手育成を目的に開催しているが、集落内にとどまらず、JA福光と連携し、集落外の小学生も積極的に受け入れ、小学生の農業に対する理解を深める活動を継続的に実施してきた。現在は、組合員以外からも参加しやすいように田植・稲刈・餅つき作業などの活動を行っている。



写真5 どろんこキッズの田植作業

2) 「親子でつくる野菜畑」による農業体験活動

「高宮どろんこキッズ」の活動は、田植・稲刈・もちつき作業とその場限りの作業となり、小学生が自ら農業に関わることが難しかった。また、小学生の親世代の農業への理解が不足していることが明らかとなった。このため、「どろんこキッズ」に加え、平成22年より“農業作業を行っている”と親子で感じてもらえる活動として、福光東部小学校と連携し年間を通じた「親子でつくる野菜畑」を開始した。親子で実際に栽培する品目を決定し、栽培管理を行うなど、参加者は、農業の大変さ・おもしろさを肌で感じている。また、活動日以外にも自分の畑を観察・世話をするなど、年々、小学生の農業への理解が深まる活動となっている。

3) 野菜の販売促進活動による実需者との交流

「高宮営農組合」が従来から取り組んでいる野菜生産では、平成21年に販売促進活動として、野菜の実需者であるレストラン等の調理師の集まりである「全日本司厨士協会富山県支部」と実際に栽培しているハウスにて、意見交換を行った。その後も「司厨士会」との意見交換会に積極的に参加し、実需者の要望を生産活動に生かすとともに、農産物の生産に関する実需者の理解促進を積極的に図っている。この取組みにより、出荷協議会を通じて、富山県内のホテルやレストラン等へ野菜を卸している。

ウ 当該集団等の活動による地域への定住促進、女性の社会参画の促進状況

当地区は、旧福光町の中心部に近接することから、今後、新興住宅地化がさらに進展することも予測されているが、「高宮営農組合」のような混住化の中での環境保全活動を通じた活動が、農家のみならず非農家の住民を含めた地域への愛着を深めている。地域への愛着は、「高宮営農組合」婦人部を中心に、PTA活動の一環として実施されている、地区内にある農道の美化のため季節の花を植える活動にも表れている。